

静岡図書館友の会では、2011年4月10日に実施される静岡市長選に立候補されている海野徹氏、田辺信宏氏、安竹信男氏の3氏に図書館政策についてお伺いしました。その回答をお知らせします。(2011・3・21作成)

1・「自治体の文化のバロメーター」と言われる図書館ですが、静岡市の文化・教育行政に於いての位置づけについてお聞かせください。

〈海野〉

図書館は多くの皆様に活用いただき、いわば、「人づくり・知のセンター」ともいえる極めて重要な基盤と捉えています。昨今、多様でかつ専門的な知識を求める潜在ニーズが拡大しています。こうしたニーズに図書館が適格に対応することは、市の人づくり・教育の充実を政策の柱として進めようとする私にとって、極めて重要な位置づけです。

〈田辺〉

文化・教育行政の中核として位置付けていきたいと考えます。公立学校の教育環境とそのレベルアップについては、かねてより私の最大関心事の1つです。

教育委員会と本庁関係部局の各機能のあり方につき、再検討を諮問したいと思います。

〈安竹〉

インターネット社会の進展する中で、益々重要視されるべきは文字の世界(文学の世界)だと確信いたします。特に幼・小・中・高時代、心の発達する大切な成長期には、図書から受ける感性を育みたいものです。文化・教育行政の基といっても過言でない図書館運営行政に力を入れるべきと考えております。

2・静岡市の図書館が謳っている「静岡市の図書館の使命、目的とサービス方針」(平成16年更新)は、私たち市民の誇りとするものですが、この具現化のために、どのような図書館政策を考えているかについて、主に、全域サービス、他機関とのネットワーク、ユニバーサルサービスについてお聞かせください。

〈海野〉

多様な個性を育んでいくことや、より一層市民の皆さんにお役にたつためには、各地の図書館や大学の図書館などとの連携やネットワークが欠かせない要件だと思います。併せて21世紀の書籍のデジタル化の潮流も視野にいれた先進的な取り組みをこの静岡市で行い、一層の拡充を図りたいとも考えています。

〈田辺〉

市立図書館と学校図書館および生涯学習センター(交流館)を軸にした文化教育行政の質的レベルアップが必要と考えます。

県立中央図書館とも連携し、「静岡学」を興すシステムも指向したい。

〈安竹〉

今、静岡市の文化度(市民の郷土意識『愛』)が高まっていると感じます。久能山東照宮の国宝指定など、その後押しをしてくださいました。登呂博物館、市美術館などオープンした事も誇りを感じます。

これら本市の文化度をさらに高めるために、全域サービス、他機関とのネットワーク、ユニバーサルサービスの重要性は申すまでもなく、さらに充実すべきと考えます。その中で、図書館の新たな使命が位置づけられると思います。

3・平成18年に静岡市立図書館協議会が、「指定管理者制度における静岡市西奈図書館の試行および、そのあとに計画されている市内5館への制度導入計画について」の答申書を提出しています。答申では静岡市の「図書館の使命、目的とサービス方針」「静岡市自治基本条例」などに基づき、従来の直営の問題点を見直し、改めて市民と行政が一体となって理想の図書館像を求めて十分に時間をかけて検討を重ねることを提言されています。

今後の審議もふくめ、市民の代表である図書館協議会の提言を尊重していただけますか？

〈海野〉

勿論です。市民と行政が一体となって理想の像を求めていくことそれ自体が、まさに私が実現したい地方自治の原点ですし、これから他のいろんな分野でも提起していきたいと思っています。ぜひとも将来あるべき、静岡らしいユニークな図書館像を、ご一緒に議論していきたいと思っています。

〈田辺〉

「図書館友の会」の活動に敬意を表します。

理想の図書館像(サービス)は目に見えないところに数多くの大切な役割(要素)があることを理解しています。図書館協議会の提言を市民の声と捉え、実行政に反映させる場の充実に努めます。

(裏に続く)

〈安竹〉

図書館協議会の提言は、まさに生の声、現場の声です。私は①「現場主義」を柱とする行政を目指します。②「市民の声を聞く課」を設置します。
をマニフェストに掲げますのでご期待ください。

- 4・図書館は平成19年と20年の2年間で正規職員67名が19名削減されました。これは、市役所全体の平均削減率5・7%を大きく上回る30%の数字となっています。この結果、正規職員が激減し、日常業務サービスが低下しているように思われます。また、正規職員と殆ど同じ業務を担っている非常勤、嘱託職員の方が、安心して能力を発揮できる働きやすい環境が望まれます。図書館に必要とされる専門性と継続性と公共性を保つために、どんな方策をお考えでしょうか。

〈海野〉

書籍のデジタル化進展等で、今後紙の書籍のみならずデジタル化書籍の収集や保存、提供などの業務が必要になります。新たに情報処理など、より一層高度な専門性が求められます。

私は、できるだけ多くの正規職員プロフェッショナルの配置を実現させたいと思っておりますが、そうした視点を含めた、皆さんが安心して能力を発揮できる働きやすい環境づくりを、多くの皆様のお話をお伺いするなかで実現したいと思っております。

〈田辺〉

正規職員と非常勤職員のバランスモデルを検討したいと思います。

また、学校司書を公立小中学校全校に配置するとともに、その専門性と継続性を考慮して待遇改善を検討したいと思います。

〈安竹〉

非常勤嘱託職員の方々の活躍を期待している私は、その待遇を保障する政策を整えたいと考えます。「やりがいのある図書館勤務職場」にしようと考えています。

専門性を充実させるプロとしての教育を受けていただいて、報酬等の適正化を図れば正規職員と変わらぬ継続性、公共性につながると考えます。

回答はアイウエオ順に掲載しました。

候補者の皆様、ご協力ありがとうございました。